

研究室に
ようこそ!

地元大学の
研究者に
インタビュー



第4回 静岡理科大学 教授 志村史夫さん(物理学)

静岡理科大学の志村教授は、スギやヒノキの「おがくず」を食べる研究で現在、特許を申請中だ。半導体の研究者である志村教授が、樹木の研究を始めたワケとは。



ウッドパウダーで 地元林業を活性化



電子顕微鏡でみたウッドパウダー。細かな繊維の固まりであることがわかる

樹木は食べ物！ おがくずでパンを作りました。

—先生は「木を食べる研究」をしているそうですが…

志村 はい。スギやヒノキを加工するときに出る「おがくず」を細かく粉砕して、食べられる「スーパーウッドパウダー」を作っています。樹木の主な成分はセルロース、要するに食物繊維だから別に食べたって変じゃないでしょ。今は水窪にある雑穀料理

店の「つぶ食・いしもと」の石本静子さんと一緒にいろいろなメニューを開発しているところ。パンやビスケット、ソーセージ…どれも3分の1が木材でできている食品です。

—おいしいんですか？

志村 違和感はないです。パンは口に入れると、木の香りがするかな。食べるトリフレッシュした気分になれる。今まで食べてくれた人のおよそ7割は「便秘に効いた」と言っているし、食物繊維だからダイエット食品として活用できそう。今は花粉症に効くかどうかを調べているところです。

—なんで木を食べようと思ったんですか。

志村 2年前に水窪の製材所を見学させてもらった時、大量のおがくずが目に残った。製材所にしてみればただのゴミだけど、よく見るときれいだし、香りもいい。直感で「これ、食べるんじゃないか」と思いました。ほら、この粉を見て、ふりかけみたいでしょ？

—先生の専門は「半導体の研究」だそうですが。

志村 そう。ずっとハイテクの世界にいて、ITが発達する様を目の当たりにしてきた。だからこそ、古代人の建築技術とか、自然や

—先生は「木を食べる研究」を始めたワケとは。

生き物の持つパワーに驚きを感じて、一つのことを真剣にやり続けると、別な世界が見えてきますよ。今は日本の林業も衰退しちゃって、山林がお荷物みたいなになっているでしょ。樹木の研究を通じて、地元林業を活性化したいと思っています。

—先生は「木を食べる研究」を始めたワケとは。

生き物の持つパワーに驚きを感じて、一つのことを真剣にやり続けると、別な世界が見えてきますよ。今は日本の林業も衰退しちゃって、山林がお荷物みたいなになっているでしょ。樹木の研究を通じて、地元林業を活性化したいと思っています。

木材のおがくずを煮沸・消毒し、細かく砕いた食用のスーパーウッドパウダー



スーパーウッドパウダー30%配合の食品たち。低カロリーが売り

